

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01176

研究課題名（和文）日本哲学における論理と感情の系譜

研究課題名（英文）A Genealogy of Logic and Emotion in Japanese Philosophy

研究代表者

野家 啓一（Noe, Keiichi）

東北大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：40103220

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、論理と感情という視点から日本哲学の形成を検討するものであった。本研究では、西田幾多郎や田辺元などの京都学派の思想家だけでなく、高橋里美、三宅剛一、阿部次郎、河野興一など、草創期の東北帝国大学で哲学を研究した人々にも着目した。また、哲学の「論理」にくわえて、美学や倫理学にあらわれる「感情」という観点を重視した。

研究成果としては、代表者の野家の数多くの論文をはじめ、シンポジウム論集 Tetsugaku Companion to Feeling (Springer, 2024) の刊行や、WEBサイト「東北帝国大学の哲学研究」の公開などが挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の日本哲学研究では京都学派の哲学に重心が置かれ、日本における学術的な哲学の形成がひろく捉えられなかった。本研究は草創期の東北帝国大学における哲学・倫理学の研究と教育に着目して分析したものであり、この点で日本哲学と呼ばれる領域の幅を拡張するという意義をもつ。

また哲学や哲学史の研究では、しばしば「論理」に偏重するきらいがあったが、本研究は美学や倫理学に見られる「感情」の諸問題を重視したことも特色である。本研究によって、日本哲学の感情論について思想的に回顧する研究が始まったと言えるだろう。

日本哲学について、ひろく国際的な発信につとめ、学術的な国際交流に寄与したことも付記しておきたい。

研究成果の概要（英文）： The task of this research project was to examine the formation of Japanese philosophy from the perspective of logic and emotion. It focused not only on Kyoto School thinkers such as Kitaro Nishida and Hajime Tanabe, but also on those who studied philosophy at Tohoku Imperial University, including Satomi Takahashi, Goichi Miyake, Jiro Abe, and Yoichi Kono. Our research emphasized not only "logic" in philosophy, but also "emotion" as manifested in aesthetics and ethics.

Our research achievements include many papers by the research leader Noe, a collection of papers based on this research: "Tetsugaku Companion to Feeling" (Springer, 2024), and the website "Philosophical Studies at Tohoku Imperial University".

研究分野：哲学

キーワード：感情 論理 日本哲学 東北帝国大学 西田幾多郎

1. 研究開始当初の背景

野家(研究代表者)は、以前より西田幾多郎や高橋里美についての仕事を進めてきたが、ここ数年、日本哲学に関係する講演や論集に多く携わり、より本腰をいれてとりくむことを考えるようになった。これまで日本の哲学界はおもに西洋哲学だけを研究することに懸念を抱いていたが、日本哲学の研究がようやく制度的に確立しつつあることは喜ばしい。とはいえ、現状では京都学派についてすら、いまださまざまな哲学者についての散発的な研究にとどまっているように思われた。

今回のプロジェクトの直接のきっかけは、東日本大震災後、2012年にオギュスタン＝ベルク氏らを迎えて開催されたシンポジウムであり、その後、東北大学を中心とした科研費研究「自然観の展開と人間的営為の運命に関する思想史的・応用倫理学的研究」、「感情の媒介的機能に定位した、よき共同的な生の構想」、東北哲学会でのシンポジウムなどを通じて、東北をひとつの発信地として、日本哲学の発展の系譜を分析する企画に思いいたった。

論理と感情といえは三木清の「ロゴスとパトス」を連想するが、この対概念は日本哲学に内包される対立と融合を的確に表現している。日本哲学の系譜をたどるうえで、論理と感情は格好の視点であると考えた。それはまた、東北大学の哲学研究が理学部科学概論講座にはじまることにも、符合するところがある。この点を野家は、西田幾多郎哲学記念館・東北大学史料館の企画展示「西田幾多郎と東北大学ゆかりの人々」におけるパネル展示や、講演「東北大学と科学哲学の伝統」(2019年)において再確認した。

包摂と対立、同化と排除が重層的に交錯する現代において、哲学がいかなる方向性を提示するかが問われている。さまざまな思想の流行を追うかわりに、われわれの足下を見つめるならば、近代の日本哲学こそ、伝統的な日本思想と中国や韓国などの東アジアの哲学、そして西洋哲学とが交差するところに「同化」と「異化」が生じ、新たな知の地平を拓きつつ形成された哲学であった。そのダイナミクスの探究は現代のもつれをほどく導きの糸となりうるだろう。

このような日本哲学に関する研究状況としては、近年ますます、国内外で日本哲学のシンポジウムが開かれ、論集も出されるようになってきている。International Association of Japanese Philosophy (IAJP) や Springer 社の Tetsugaku Companions to Japanese Philosophy はその一端である。日本哲学の成立にも目が向けられ、J. Krummel, Contemporary Japanese Philosophy (2019) では、戦後の井筒俊彦、上田閑照らも論じられる。個別研究や歴史的回顧を超えて、現代という視点から日本哲学を捉えなおす動向が始まっている。本研究もこの動向に沿うものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、論理と感情という視点から日本哲学を検討することにより、その多様性と可能性とを明らかにし、かつその成果をひろく世界に発信して日本哲学研究の基盤形成に寄与することにある。日本哲学として本研究が視野に入れるのは、西田幾多郎や田辺元などの京都学派の思想だけではない。高橋里美や三宅剛一といった、かれらと直接に交流しながら論理や存在について思索を掘りすすめた哲学者や、阿部次郎や河野輿一など、感情や美学、心理学にわたって広く思想を展開した哲学者の思想も含まれる。これらの哲学者は、西洋哲学を移入し「同化」という面と、外来思想と伝統的な日本思想との対話のなかで哲学的問題を立て、それを独自の哲学として展開するという「異化」の面を兼ね備えている。このような日本哲学の格闘は現在まで継続している。本研究は、日本哲学の総合的研究をつうじて現在に生きる思想的立場を確立し、国際的な視点から自己吟味する可能性を切り開くものである。

うえでも触れたが、日本哲学の研究は国内外で活発化している。本研究はこの現況に対して三つ課題を見いだす。

第一は**学派的な多様性**である。これまでの日本哲学の研究においては京都学派や和辻哲郎などが中心で、海外の研究も仏教に偏る傾向があった。日本哲学を固有の知的財産として継承・批判するには、統合的な見地にもとづいて、日本哲学の諸学派をとらえる必要がある。

第二は**分野的な多様性**である。田辺や三宅の出発点は科学哲学・数理哲学であった。阿部次郎は Th. リップスの心理主義をふまえて倫理学や美学を展開した。高橋穰のように心理学者から倫理学者に転じた例もある。日本哲学の成立を捉えるには、さまざまな分野を視野に入れ、その後の展開のなかで削ぎ落とされた可能性を拾う必要がある。論理と感情という対概念は、その格好の切り口になるだろう。

第三は**比較哲学的な性格**である。京都学派は西洋哲学へのオルタナティブであろうが、その場合、西洋哲学の摂取ないし「同化」の側面と、独自の哲学の展開という「異化」の側面があわせて勘案されなければならない。例えば、ドイツにおける新カント派から現象学にいたるパラダイム転回を見ながら、当時の日本の哲学者たちがどのように固有の「論理」を紡ぎ出したか。その

比較哲学的な営みが、われわれの比較哲学的研究の対象となる。このような比較哲学的な観点から日本哲学における「同化」と「異化」を捉える際して、われわれは「論理と感情」にとくに着目する。もちろん、この運動が自文化中心的なナショナリズムへと繋がりが得たことについての批判的な自覚も不可欠である。

3. 研究の方法

本研究は方法論的には以下の二つの点で独自性を有するだろう。

(1) 日本哲学を総合的に取り扱うこと。従来の属人的な研究ではなく、日本哲学の全体的な展開を、戦前から戦後まで射程を広げて研究する。本研究ではとりわけ、田辺元、高橋里美、三宅剛一、阿部次郎、河野興一、石原謙といった、**草創期の東北帝国大学**で活躍した哲学者に注目する。本研究の分担者の多くが東北大学に所属しており、東北帝国大学で教鞭を執ったヘリゲル、レーヴィットらの資料を使えるという事情もある。

(2) **現代の視点から**日本哲学を評価すること。本研究では、ドイツにおける新カント派的な論理学から現象学的な存在論への転回、心理学主義の興隆やベルグソンの哲学などを日本の哲学者がどのように受け止め、とりわけ東北帝国大学がどのように科学哲学や現象学・実存主義研究の中心地になったかを跡づける。

上記の方法を具体化すべく、研究代表者・分担者は、(1) 科学哲学・論理学の研究班、(2) 西洋哲学の同化と異化の研究班、(3) 感情・美学の研究班に分かれて、研究にあたる。

(1) **科学哲学・論理学の研究班**は、田辺元、小山鞆絵、高橋里美、三宅剛一などについて、当時の独・仏の哲学や、社会的・科学技術の状況との関連などを研究する。かれらは東北帝国大学理学部科学概論講座の担当であった時期があり、日本の科学哲学の形成の観点でも考察する。高橋や三宅らは、新カント派の研究から現象学の研究へと進んだが、その経緯について検討する。

(2) **西洋哲学の同化と異化の研究班**では、石原謙、久保務、ヘリゲル、レーヴィットなどに即して、西洋哲学(古代中世哲学、カント・ヘーゲル哲学、およびハイデガー)の受容について検討する。そのさい、西田幾多郎や田辺元をはじめとする京都学派の場合と対比に留意する。東北大学図書館、東北大学資料館などの資料を活用し、近代日本哲学の成立と展開について検討する。

(3) **感情・美学の研究班**では、阿部次郎、高橋穰などの美学・倫理学や、河野興一のベルグソン哲学研究、大脇義一の感情心理学について検討することによって、日本哲学における道徳や感情の射程を明らかにする。

4. 研究成果

研究代表者の野家は、阿部次郎、田辺元、高橋里美、三宅剛一などの業績について論じ、日本哲学における草創期の東北帝国大学の哲学研究における「論理と感情の系譜」について解明した。また野家は、福澤諭吉、三木清、西田幾多郎など、日本の戦前における代表的な思想家について検討するばかりでなく、大森荘蔵、廣松渉、木村敏など、戦後の思想家についても論じ、20世紀後半にいたるまでの日本哲学の系譜を跡づけた。分担者の上原や林は、西田や田辺をはじめとする日本の哲学者における「感情」の諸問題について論究した。

研究代表者・分担者が編集・執筆に携わった代表的な出版物としては、『エモーション・スタディーズ』誌の特集企画「共同と感情の哲学」(2021)や、Tetsugaku Companion to Feeling (Springer, 2024)などが挙げられよう。

また分担者の遠藤は、草創期の東北帝国大学の哲学研究について、東北大学史料館等における調査をふまえて、WEBサイト「東北帝国大学の哲学研究」を整備、公開した。

(<https://www2.sal.tohoku.ac.jp/philosophy/PSTiU/index.html>)

これまでの日本哲学研究は京都学派の哲学に重心を置くことが多かったが、本研究は草創期の東北帝国大学における哲学・倫理学の研究と教育に光を当てることで、日本哲学研究の幅を広げたという意義をもつ。また、哲学の「論理」にとどまらず、美学や倫理学に見られる「感情」の諸問題を重視したことも特色であり、今後の日本哲学の感情論の研究に寄与することが期待される。

本科研究費によって多くの研究会や講演会を開催することができたが、その一部について、表題・日時・場所、および登壇者を以下のとおり記録しておく。コロナ禍のなか、日本哲学について学術的な国際交流につとめものである。

International Conference Emotion and Feeling in Japanese Philosophy (日本哲学における感情)

[24-25 April 2021 (Sat. and Sun., Japan Time), Tohoku University and virtual]

登壇者: NAOE Kiyotaka, UEHARA Mayuko, Enrico FONGARO, LAM Wing Keung, Raquel BOUSO, Lori Kuan-Ling LIU, SATO Toru, Gereon KOPF, Maki SATO, KIDO Atsushi, Rika DUNLAP, CHEUNG Ching Yuen, HAN Shangrong, NOE Keiichi

第 44 回 フッセルアーベント 佐藤透『質的知覚論の研究 — 世界に彩りを取り戻すための試論』合評会

[2021 年 8 月 11 日 (水), 東北大学 (Google Meet)]

登壇者: 佐藤透、音喜多信博、佐藤駿

Alexandro Salice 教授 講演会 “Envy, Racial Hatred, and Self-Deception”

[2022 年 8 月 6 日 東北大学]

International Conference Feeling, Rationality and Morality: East and West

[Calsamiglia Hall, Universitat Pompeu Fabra, Barcelona, Spain 5-6 November 2022 (Sat. and Sun.) and virtual, Organizer: Tohoku University, Co-organizer: Universitat Pompeu Fabra]

登壇者: NOE Keiichi, LAM Wing Keung, Leah KALMANSON, WANG Hua, TAKEHANA Yosuke, Raquel BOUSO, Marcello GHILARDI, Dobin CHOI, Michiko YUSA, OGIHARA Satoshi, Montserrat Crespín PERALES, SHIMANUKI Satoru

日本哲学ワークショップ「物語り論の今」

[2023 年 3 月 6 日 東北大学 + オンライン]

登壇者: 野家啓一、鹿島徹、廖欽彬、林永強、Enrico Fongaro、張政遠

講演会「フランスとイタリアの哲学者が見る日本哲学における情、感情の問題」

[2023 年 3 月 16 日 京都大学文学部 + オンライン]

登壇者: Lorenzo Marinucci, Thierry Hoquet, Simon Ebersolt, Chantal Jaquet

研究会「東北帝国大学の哲学研究」

[2023 年 3 月 10 日、東北大学 + オンライン]

講演者 遠藤健樹

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 72
2. 論文標題 幕末仙台藩の学問伝統 大槻文彦と玉虫左太夫	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 仙台一高同窓会会報	6. 最初と最後の頁 31-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 2024年1月号
2. 論文標題 歴史とは何か？ 『物語り論』の視角から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『現代思想』2024年1月号	6. 最初と最後の頁 164-171
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 第51巻5号
2. 論文標題 『臨床哲学』以前・以後	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『現代思想』第51巻5号2023年4月	6. 最初と最後の頁 70-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林永強	4. 巻 28
2. 論文標題 物語ることと聞くことのはざまで：感じ取ることについての試論	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『求真』	6. 最初と最後の頁 93-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 28
2. 論文標題 物語論をunlearnする	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『求真』	6. 最初と最後の頁 61-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Wing Keung Lam	4. 巻 6
2. 論文標題 The Feeling of Happiness, Moral Sentimentalism and Knowing-to: On Nishida Kitaro 's Energetism	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Kido Atsushi, Noe Keiichi and Lam Wing Keung (eds), Tetsugaku Companion to Feeling. Tetsugaku Companions to Japanese Philosophy, vol 6. Springer	6. 最初と最後の頁 39 ~ 50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-031-42186-0_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mayuko Uehara	4. 巻 6
2. 論文標題 The Orientation of Japanese Philosophy: Feeling in Nishida, or Scientific Attitude in Tanabe	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Kido Atsushi, Noe Keiichi and Lam Wing Keung (eds), Tetsugaku Companion to Feeling. Tetsugaku Companions to Japanese Philosophy, vol 6. Springer	6. 最初と最後の頁 3 ~ 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-031-42186-0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toru Sato	4. 巻 6
2. 論文標題 Japanese "Mono-no-aware" and Western Philosophy	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Kido Atsushi, Noe Keiichi and Lam Wing Keung (eds), Tetsugaku Companion to Feeling. Tetsugaku Companions to Japanese Philosophy, vol 6. Springer	6. 最初と最後の頁 83 ~ 100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-031-42186-0_6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi Kido	4. 巻 6
2. 論文標題 The Early Reception of Nietzsche's Eternal Recurrence in Japan and Its Emotional Features	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Kido Atsushi, Noe Keiichi and Lam Wing Keung (eds), Tetsugaku Companion to Feeling. Tetsugaku Companions to Japanese Philosophy, vol 6. Springer	6. 最初と最後の頁 117 ~ 132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-031-42186-0_8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi Kido	4. 巻 29
2. 論文標題 Examining Inoue Tetsujiro's 'Phenomena-as-Reality Theory' from a Kantian Perspective A Prototype of the Anti-metaphysics of Japanese Philosophy	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『求真』(田辺元記念哲学会)	6. 最初と最後の頁 ----
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 第49巻16号
2. 論文標題 移動祝祭日 斜交いからの大森荘蔵論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 28-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 第2集
2. 論文標題 『物語の哲学』と西川文学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西川徹郎研究	6. 最初と最後の頁 32 - 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 第49巻16号
2. 論文標題 日本におけるワイトゲンシュタイン受容・補遺	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 71
2. 論文標題 京都学派の科学哲学 西田幾多郎と下村寅太郎	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 点から線へ	6. 最初と最後の頁 110-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 第3集
2. 論文標題 妹としの信仰をめぐって 西川徹郎の宮沢賢治論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 西川徹郎研究	6. 最初と最後の頁 49-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 第14号
2. 論文標題 木村人間学の基盤 哲学の立場から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文明と哲学	6. 最初と最後の頁 110-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤透	4. 巻 54
2. 論文標題 「もののあはれ」の日本的性格を巡って その美意識としての一般性と特殊性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思索（東北大学哲学研究会）	6. 最初と最後の頁 27--51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 遠藤健樹	4. 巻 54
2. 論文標題 役割から離脱すること 三木清における哲学的人間学と政治哲学について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思索（東北大学哲学研究会）	6. 最初と最後の頁 53--74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Lam, Wing Keung	4. 巻 Vol. 1, Issue 1-2
2. 論文標題 Bodily Pathos and Virtue Ethics: On Miki Kiyoshi 's Logic of Imagination	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Journal of East Asian Philosophy	6. 最初と最後の頁 31 ~ 42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s43493-021-00009-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Lam Wing Keung	4. 巻 33
2. 論文標題 Reading Nishida Kitaro; as a New Confucian: With a Focus on His Early Moral Philosophy	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asian Philosophy	6. 最初と最後の頁 15 ~ 28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/09552367.2022.2151088	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uehara Mayuko	4. 巻 Vol. 21, Nos. 1-2
2. 論文標題 Kuki Shuzo: Art and Existence as the Play of Contingency-Necessity	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 APA Newsletter on Asian and Asian American Philosophers and Philosophies	6. 最初と最後の頁 51--55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 53
2. 論文標題 東北大学と科学哲学の伝統	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思索 (東北大学哲学研究会編)	6. 最初と最後の頁 145-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荻原 理	4. 巻 6
2. 論文標題 共同と感情 西洋哲学のある傾向に逆らって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 4~12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 城戸 淳	4. 巻 6
2. 論文標題 カントの共通感覚論 共同性の感情的基礎のために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 13~21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村山 達也	4. 巻 6
2. 論文標題 「好きな人の特別な存在になる」ことの特別さ 相互的な愛の価値について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 22～30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_22	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部 恒之、北村 英哉、原 壱	4. 巻 6
2. 論文標題 コロナ問題をめぐる哲学と心理学の対話	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 31～41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野家 啓一	4. 巻 6
2. 論文標題 哲学からのコメント	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 42～47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20797/ems.6.Si_42	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 野家啓一	4. 巻 30(5)
2. 論文標題 額に汗して考え抜く：二元論的思考を根底から覆す『ことだま論』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『総合診療』第30巻第5号	6. 最初と最後の頁 .556-559
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計48件（うち招待講演 16件 / うち国際学会 22件）

1. 発表者名 Keiichi NOE
2. 発表標題 'Heaven and earth are sentiment': Ohmori Shozo and Nishida Kitaro
3. 学会等名 International Conference: Feeling, Rationality and Morality; East and West / November 5, 2022./ Universitat Pompeu Farba, Barcelona, Spain (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 西田幾多郎の生命論
3. 学会等名 生命倫理講演会 2023年2月22日 京都大学高等研究院ヒト生物高等研究拠点 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 物語り論をunlearnする
3. 学会等名 日本哲学ワークショップ「物語り論の今」 2023年3月6日 東北大学 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 『レトリックの精神』と『公共圏』 三木清が考え残したこと
3. 学会等名 三木清研究会公開講演会 2023年7月1日 たつの市文学資料館「霞城館」 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 福沢諭吉の<もう一つの顔> 『丁丑公論』および『瘦我慢の説』を読む
3. 学会等名 秋桜会例会 2023年9月20日 ホテル・モントレール
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Noe Keiichi
2. 発表標題 The Unfinished Project of Miki Kiyoshi
3. 学会等名 NCCU International Conference / October 5, 2023 / NCCU BaiNian Bldg, Taiwan (国立政治大学百年楼、台湾) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Noe Keiichi
2. 発表標題 The Unfinished Project of Hiromatsu Wataru 's Practical Philosophy
3. 学会等名 International Conference: Practical Philosophy across East Asian Traditions / October 7, 2023 / Department of Philosophy, National Chengchi University, Taiwan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 アナクロニズム(時間錯誤)の可能性
3. 学会等名 第14回時代考証学会シンポジウム「タイムスリップ時代劇の可能性 歴史・時間・物語」 2023年12月9日 明治大学リバティタワー(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 「風土」としての日本芸術—非・自然から自然へ
3. 学会等名 東北大学 文学部・文学研究科講演会 川内キャンパス、2023年11月8日（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Uehara Mayuko
2. 発表標題 Le croisement de Heidegger et de Nishida : le Dasein ou l'etre comme lieu
3. 学会等名 Colloque International LE DEPPASSEMENT DE HEIDEGGER REGARDS CROISES FRANCE-JAPON, Universite Nanterre, Paris, 30 novembre 2023. (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Lam, Wing Keung
2. 発表標題 From Knowing-to to Feeling-to: On Nishida Kitaro 's Moral Philosophy
3. 学会等名 ". International Mini-Workshop in Philosophy. Department of Philosophy, Soochow University, 27-28 April 2023. (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Lam, Wing Keung
2. 発表標題 The Feeling of Congruence: From Shaftesbury to Nishida Kitaro
3. 学会等名 Practical Philos of Philosophy across East Asian Traditions. Department of Philosophy, National Chengchi University, 6-7 October 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 發表者名 Lam, Wing Keung
2. 發表標題 From Feelings to Norms: A Nishidaian Approach
3. 学会等名 "International Symposium "Social Norm, Sentiment and Ethics in Japanese Philosophy from the International Perspectives". Department of Philosophy, National Taiwan University, 5 November 2023 (國際学会)
4. 發表年 2023年

1. 發表者名 林永強
2. 發表標題 西田幾多郎、儒學與道德情感：情動倫理學的創建」
3. 学会等名 東亞儒學經典的傳統與當代國際學術研討會 臺灣大學人文社會高等研究院東亞儒學研究中心、國立臺灣大學、2023年12月18-19日
4. 發表年 2023年

1. 發表者名 Lam, Wing Keung
2. 發表標題 Event-based Agent: On Kimura Bin 's Philosophizing of Self
3. 学会等名 International Workshop on East Asian Ethics: Knowledge and Action. Department of Philosophy, Soochow University, 23 February 2024 (國際学会)
4. 發表年 2024年

1. 發表者名 林永強
2. 發表標題 西田幾多郎的理性與倫理
3. 学会等名 「現代日本與傳統：由哲學的省思」工作坊、國立臺灣大學哲學系、2024年3月16日
4. 發表年 2024年

1. 発表者名 林永強
2. 発表標題 美德倫理學：從西田幾多郎的觀點看
3. 学会等名 中國文化大學Eurasia講座、2023年11月16日
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 林永強
2. 発表標題 三木清の行為哲學：情感與身體
3. 学会等名 東吳大學哲學系、2023年12月22日
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 林永強
2. 発表標題 情的文化：西田幾多郎的日本文化論
3. 学会等名 國立臺灣大學國家發展研究所、2024年3月14日
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 遠藤健樹
2. 発表標題 歴史的未來主義と人間學的歴史記述ーカール・レーヴィットにおけるファシズム批判
3. 学会等名 政治哲學研究会第45回研究大会（オンライン）、2022年9月2日
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 フォンガロ・エンリコ
2. 発表標題 物語たいという体験についてー物語の倫理が可能なのか
3. 学会等名 日本哲学ワークショップ「物語り論の今」 2023年3月6日 東北大学（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsushi KIDO
2. 発表標題 Antimetaphysics of Japanese Philosophy: Kant 's Transcendental Idealism and Tetsujiro Inoue 's " Theory of Phenomena as Reality "
3. 学会等名 第7回日中哲学フォーラム、2023年9月12日、東北大学（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠藤健樹
2. 発表標題 東北帝国大学の哲学研究
3. 学会等名 科研費「日本哲学における論理と感情の系譜」研究会 2023年3月10日 東北大学（オンライン）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 OGIHARA Satoshi
2. 発表標題 Omori Shozo 's ' Scene-emotions (fujo) and Emotions
3. 学会等名 International Conference: Feeling, Rationality and Morality; East and West / November 5, 2022./ Universitat Pompeu Farba, Barcelona, Spain (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 他者を知ること 西田哲学 「私と汝」あるいは自己と他者の関係
3. 学会等名 京都大学の知にふれる公開講座春秋講義・令和4年度秋季講義「分断の時代 哲学者からのヒント」、京都大学 国際科学イノベーション棟、2022年12月9日。
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 NOE Keiichi
2. 発表標題 Miki Kiyoshi and the Philosophy of Social Sciences
3. 学会等名 ANPOSS/ENPOSS/POSS-RT 2021 Joint Conference, March 4, 2021, Invitational Lecture, International Academic Societies, Hitotsubashi University, Tokyo, Japan (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 近現代日本の科学哲学
3. 学会等名 東アジア哲学：レクチャーシリーズ, 2021年12月1日, Meiji Institute of Philosophy (MIPs) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 草創期東北大学と<総合知>の理念
3. 学会等名 東北大学基金感謝のつどい 2022年9月3日 東北大学片平キャンパスさくらホール (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 心理学と哲学のあいだ
3. 学会等名 日本心理学会第86回大会 2022年9月10日 日本大学文理学部（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 哲学・科学・精神医学
3. 学会等名 日本精神病理学会第45回大会 2022年9月17日 京都大学紫蘭会館（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 阿部次郎と人文学の未来
3. 学会等名 東北大学文学部100周年記念講演 2022年10月15日 東北大学片平キャンパスさくらホール
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 UEHARA Mayuko
2. 発表標題 情の哲学か科学の哲学か 西田と田辺の比較研究
3. 学会等名 International Conference, Emotion and Feeling in Japanese Philosophy (日本哲学における感情) 24-25 April 2021, Tohoku University (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Enrico FONGARO
2. 発表標題 Philosophies and feeling
3. 学会等名 International Conference, Emotion and Feeling in Japanese Philosophy (日本哲学における感情) 24-25 April 2021, Tohoku University (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 LAM Wing Keung
2. 発表標題 Feeling of happiness and moral sentimentalism: on Nishida Kitaro 's energetism
3. 学会等名 International Conference, Emotion and Feeling in Japanese Philosophy (日本哲学における感情) 24-25 April 2021, Tohoku University (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SATO Toru
2. 発表標題 「もののあはれ」と西洋思想
3. 学会等名 International Conference, Emotion and Feeling in Japanese Philosophy (日本哲学における感情) 24-25 April 2021, Tohoku University (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 KIDO Atsushi
2. 発表標題 ニーチェの永遠回帰論の仏教的解釈
3. 学会等名 International Conference, Emotion and Feeling in Japanese Philosophy (日本哲学における感情) 24-25 April 2021, Tohoku University (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 UEHARA Mayuko
2. 発表標題 Sentiment: jo 情, kanjo 感情 “Lire la philosophie de Nihida Kitaro; du point de vue du sentiment ou de l’emotion
3. 学会等名 Colloque international Les Concepts en traduction japonaise, 26 Nov 2021, Universite Paris Nanterre, Zoom (Kyoto) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 他者への嫌悪と自らの内への恐れ 京都学派の哲学を通した一考察
3. 学会等名 日韓研究会 “Towards Peace and Global Citizenship” (梨花女子大学総長Kim Heisook教授主催) 2022年1月8日 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 遠藤健樹
2. 発表標題 終末論と政治的闘争 エリック・フェーゲリンとカール・レーヴィットにおけるアウグスティヌス受容について
3. 学会等名 第4回哲学論集研究会哲学論集研究会 (弘前大学西洋倫理思想史研究室、Zoom)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 感情と思考
3. 学会等名 京都府立園部高等学校 京都府教育委員会・出前授業「知的好奇心をくすぐる体験授業」2021年10月22日
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 萩原理
2. 発表標題 西田『善の研究 (An Inquiry into the Good)』第一部第一章「純粹經驗 (pure experience)」について
3. 学会等名 ユトレヒト大学 History and Philosophy of Objectivity (ゲスト講師) 2022年3月31日
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤透
2. 発表標題 佐藤透『質的知覚論の研究 世界に彩りを取り戻すための試論』合評会(応答)
3. 学会等名 第44回 フッセルアーベント2021年8月11日(東北大学)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Lam, Wing Keung
2. 発表標題 "Nishida Kitaro and Shaftesbury: An Encounter of Moral Sentimentalism"
3. 学会等名 The 6th Conference of European Network of Japanese Philosophy. Faculty of Humanities, Eotvos Lorand University (ELTE), Hungary, 1-4 February 2022. (Webinar) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Uehara Mayuko
2. 発表標題 L'orientation de la philosophie japonaise : L'emotion chez Nishida ou la pratique chez Tanabe
3. 学会等名 Institut francais de recherche sur l'Asie de l'Est UMR 8043, Inalco / Universite de Paris / CNRS (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 田辺哲学の現代的意義――コロナ時代に向けて
3. 学会等名 田辺元没後六十周年記念シンポジウム、2021年9月4日
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上原麻有子
2. 発表標題 身体論的にひもとく西田哲学について
3. 学会等名 京都国際舞台芸術祭、KYOTO EXPERIMENT 2021 SPRING Super Knowledge for the Future「ヴォイス・オブ・ヴォイド展 トークシリーズ 2、2021年10月9日、京都芸術センター（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 京都学派の科学哲学 西田幾多郎と下村寅太郎
3. 学会等名 西田幾多郎生誕150周年記念講演会 2020年9月3日 西田幾多郎記念哲学館（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野家啓一
2. 発表標題 木村人間学の基盤：哲学の立場から
3. 学会等名 日独文化研究所：木村敏先生を偲ぶ会（オンライン） 2022年1月10日（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 東京大学東アジア芸文書院（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 論創社	5. 総ページ数 -
3. 書名 『文学・哲学・感染症』（野家啓一「コロナ時代における〈生政治〉の行方」pp.110-127）	

1. 著者名 瀬名秀明・渡辺政隆ほか	4. 発行年 2023年
2. 出版社 時事通信社	5. 総ページ数 -
3. 書名 『知の統合は可能か』（野家啓一・瀬名秀明「専門家の枠を打ち破る〈総合知〉」pp.73-99）	

1. 著者名 大森荘蔵	4. 発行年 2023年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 -
3. 書名 『時間と自我（新装版）』（野家啓一「解説 大森荘蔵の『晩年様式集』」pp.268-277）	

1. 著者名 大森荘蔵	4. 発行年 2023年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 -
3. 書名 『時間と存在（新装版）』（野家啓一「解説 存在の意味の制作（ポイエーシス）：大森荘蔵の『晩年様式集（その2）』」pp.270-278）	

1. 著者名 曾根原理、伴野文亮、仁平政人（編）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 ペリかん社	5. 総ページ数 -
3. 書名 『阿部次郎ルネサンス』（野家啓一「阿部次郎と人文学の未来」pp.13-37）	

1. 著者名 Sarah Flavel / Chiara Robbiano (eds)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Bloomsbury	5. 総ページ数 -
3. 書名 Key Concepts in World Philosophies A Toolkit for Philosophers (Uehara Mayuko, "Noh Theater Mask" (Chapter 43))	

1. 著者名 N.R.B. Loewen, A. Rostalska (eds.)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Bloomsbury	5. 総ページ数 -
3. 書名 Diversifying Philosophy of Religion Critiques, Methods and Case Studies (Uehara Mayuko, "Nishida Kitaro's 'I and Thou' through the Work of Jessica Benjamin Towards the Issue of Equality" (Chapter 13))	

1. 著者名 廖欽彬、伊東 貴之、河合 一樹、山村 奨	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 886
3. 書名 東アジアにおける哲学の生成と発展（このうち、上原麻有子「九鬼周造 偶然 - 必然の戯れとしての芸術と実存」57 - 69頁を担当）	

1. 著者名 廖欽彬、伊東 貴之、河合 一樹、山村 奨	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 886
3. 書名 東アジアにおける哲学の生成と発展（このうち、林永強「新儒家としての西田幾多郎：人格実現説をめぐって」523-543頁を担当）	

1. 著者名 eds. Sarah Flavel and Chiara Robbiano	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Bloomsbury	5. 総ページ数 480
3. 書名 Key Concepts in World Philosophies A Toolkit for Philosophers（このうち Mayuko Uehara, “Noh Theater Mask” (Chapter 43) pp. 207-219を担当）	

1. 著者名 Matsumaru, Hisao, Arisaka Yoko and Lucy Cristina Schultz. eds	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 264
3. 書名 Tetsugaku Companion to Nishida Kitaro（このうち、Lam, Wing Keung. “Nishida Kitaro and Virtue Ethics: With a Focus on Zen no Kenkyu”, pp. 207-218を担当）	

1. 著者名 大森荘蔵	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 376
3. 書名 『新視覚新論』（このうち、野家啓一「解説 二元論の解体と超克」pp.359-369を執筆）	

1. 著者名 城戸 淳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 250
3. 書名 極限の思想 ニーチェ 道徳批判の哲学	

1. 著者名 野家啓一	4. 発行年 2021年
2. 出版社 河合文化教育研究所	5. 総ページ数 83
3. 書名 3.11以後の科学・技術・社会（河合ブックレット41）	

1. 著者名 Kido Atsushi, Noe Keiichi, Lam Wing Keung (eds.)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 186
3. 書名 Tetsugaku Companion to Feeling	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荻原 理 (Ogihara Satoshi) (00344630)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	直江 清隆 (Naoe Kiyotaka) (30312169)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上原 麻有子 (Uehara Mayuko) (40465373)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	村山 達也 (Murayama Tatsuya) (50596161)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	佐藤 透 (Sato Toru) (60222014)	東北大学・国際文化研究科・教授 (11301)	
研究分担者	原 塑 (Hara Saku) (70463891)	東北大学・文学研究科・准教授 (11301)	
研究分担者	遠藤 健樹 (Endo Kenju) (80739970)	北海道教育大学・教育学部・准教授 (10102)	
研究分担者	城戸 淳 (Kido Atsushi) (90323948)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	F O N G A R O E N R I C O (Fongaro Enrico) (90457119)	南山大学・南山宗教文化研究所・教授 (33917)	
研究分担者	ラム ウィンカン (林永強) (Lam Wing Keung) (90636573)	獨協大学・国際教養学部・教授 (32406)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計6件

国際研究集会 Emotion and Feeling in Japanese Philosophy (日本哲学における感情)	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 遊佐道子(ワシントン大学)「詩・ことば・自然」+有坂陽子(ヒルデスハイム大学) 「世界哲学史の中の日本での哲学史と現在、「哲学」とは何かの再検討」講演会(2022年3月11日)	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 Alexandro Salice教授 講演会"Envy, Racial Hatred, and Self-Deception" [8月6日 東北大学]	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 International Conference Feeling, Rationality and Morality: East and West, Universitat Pompeu Fabra, Barcelona, Spain 5-6 November 2022	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 日本哲学ワークショップ「物語り論の今」2023年3月6日 東北大学	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 講演会「フランスとイタリアの哲学者が見る日本哲学における情、感情の問題」 2023年3月16日 京都大学文学部	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------